

私は 2025 年 9 月から約 10 か月間、台湾の高雄にある文藻外語大學に留学しました。台湾という場所は日本と近い距離に位置し、日本文化も浸透しているという印象がありますが、実際に留学し、暮らしてみると毎日驚くことばかりでした。また、外語大学ということもあり台湾人だけではなく、たくさんの外国人や日本人と過ごし、国の文化の違いや価値観の違いをたくさん経験することができました。今回の最終報告書では私がこの留学を経て学んだことや印象に残ったこと、一年前の目標に対してどうだったかなどを書いていこうと思います。

まず、留学に行く前や来たばかりの頃、国によって文化の違いがあることは理解していましたが、理解したうえで「外国人だから」というレッテルを貼ってしまうことが多く、結局浅い関係で終わってしまったり、せっかく外国人と話す機会があってもお互いの国を紹介して終わってしまうということがよくありました。しかし、寮生活でベトナム人の子たちと仲良くなり、その子たちは私の悩みを聞いてくれたり、冗談を言い合ったり、遊びに行ったりして私を「個人」としてみてくれた一方で、日本の文化や考え方、価値観についてよく質問してくれ、なにか問題や気になることがあったときに「日本ではこういう考え方みたいだからこうするほうがいいかな」などとそれに沿って配慮してくれたりしました。そのとき、私はレッテルを貼られたようには感じなかったし、なによりとてもうれしかったです。それからは異文化理解というものを自分が人を判断するための材料にしたり、決めつけるのではなく、人と仲良くするための手助けの方法として人間関係に活かしていくように努めました。これは外国人に限ったことではなく、日本人同士でも同じでお互いの背景や環境を理解して、歩み合うことが人間関係の中では大切だという学びでした。その学びを活かし、「〇〇人」という認識から一個人として友達になって、日本人の友達と何ら変わらないように遊んだり話せたりした瞬間が一番留学で楽しかった瞬間です。

台湾留学で印象に残ったことというと、台湾人やそのほかの外国人は私が思っているより日本についてよく知っていたことでした。特に、台湾人は日本に行ったことがあるという人がとても多く、その中には日本の都道府県にすべて行ったことがあるという人や私が全く知らない地名の場所に行っている人もいました。また、今度日本に行くからおすすめの場所を教えてほしいという友達も多かったです。そのようなことを聞いて、私は日本のことを全然知らないなと実感することばかりで、日本人である私よりも日本に詳しくたり、おすすめの場所をすぐに言えなかったりすると、改めて日本についてよく知る必要があるなと思いました。留学に行って外国に住むことで、かえって日本の文化や場所、歴史

について振り返る機会が増え、いろいろな国や地域の人と関わることができたことで「私自身」についてもよく振り返ることができた貴重な時間だったなと感じています。

留学に行く前、私は3つの目標を設定していました。「中国語の授業、文化体験の授業に積極的に参加する」「台湾の歴史的建造物や美術品を見て、異文化を理解する」「英語、中国語を使って積極的に交流し、緊張しやすい性格を克服する」の3つです。実際に留学を経験し、振り返ってみると自分なりに達成できた部分とまだ課題として残っている部分があったと感じます。まず、1つ目の「中国語の授業、文化体験の授業に積極的に参加する」について、事前に考えていた太極拳や書道の授業をはじめ、台湾や中国のお茶や食、遊びなどの授業を受け、日本とは違う文化を幅広く体験できたと思います。特にお茶の授業が一番印象に残っていて、日本もお茶の文化が根強いので、日本と比較して、同じ「烏龍茶」でも味が全然違うなどといった発見が多く、そこから様々な国のお茶に興味を持つことができました。中国語の授業でも中国語を学ぶだけでなく、授業を通していろいろな国のクラスメイトと交流したり、先生が台湾の生活に根差した文化や習慣を教えてくれたりしました。こうした授業に積極的に参加したことで、自分が想像もしなかった文化を知ることができ、またどうしてそのような文化が生まれたのか、どう発展していったのかという文化の背景についても知ることができ、考え方やものの見方に新しい視点が加わったと感じます。2つ目の「台湾の歴史的建造物や美術品を見て、異文化を理解する」では高雄だけではなく、台湾のいろいろな場所や美術館、博物館に行き、台湾の歴史や風土に関して学ぶことができました。その中でも一番印象に残っているのは台湾の原住民について紹介や展示がされている「台湾原住民族文化園區」です。私にとって「原住民」という存在はあまり身近なものではなかったのですが、台湾には日本よりも多くの原住民が住んでおり、学校の授業でも原住民の話をするのが度々あったことから、徐々に興味を持つようになりました。実際、台湾原住民族文化園區に行ってみると、外国人よりも台湾人が多く訪れ、学生から年配の方まで幅広く観覧していました。また原住民の踊りや特色を知ることができ、非常に貴重な体験ができました。この体験を通して感じたのは台湾では日本よりも原住民に対する関心が高いということです。日本では原住民に対してあまり関心がないという人が多いと思いますが、台湾では身近に多くの原住民がいるからか、原住民に関するルールや話題がよく話にあがったり、原住民に対しての知識が豊富である人が多い気がします。同じ国に住んでいても文化が異なる部分が多い原住民に対して国民が関心を抱いたり、国が共存するための道を考えたりするという姿勢にとっても驚きましたし、相手のことを知って寄り添うという「異文化理解」に感銘を受けました。3つ目は「英語、中国語を使って積極的に交流し、緊張しやすい性格を克服する」です。実はこの3つ目が私にとって一番難しいと感じ、少し課題が残った目標でした。留学前は英語と中国語の両方を使ってコミュニケーションを取りたいと考えていたのですが、中国語の授業が始まると計画的にどちらも勉強することが難しくなり、また、あまり英語の授業を取らなかったということもあって使う頻度も中国語の方が多くなっていきました。結果、留学が終わるころ

には中国語の力がついたと感じる一方で、英語は前よりも言葉が出なくなったように感じました。外語大学ということでどちらも使う機会があるから、どちらも語学力が伸びるのではと考えていたのですが、2つの言語を同時に勉強することは予想以上に難しく、もう少し文法やリスニング、スピーキングという分野に絞って勉強すればよかったなと思います。また「緊張しやすい性格」について、留学前はすぐに緊張してしまう自分を変えたいと考えていました。でも実際に留学してみて、無理に性格を変えたり、治したりする必要がないのだと気付きました。知らない人に外国語で話しかけたり、スピーチをしたり、発表をしたり、たくさん緊張する場面がありましたが、そんな時はたくさん時間を使って練習したり、緊張が和らぐ方法を見つけたりして自分の性格とうまく付き合っていくのが大切だと感じました。「緊張しない自分」になることはできませんでしたが、「緊張しても大丈夫な自分」になることができ、その経験を必ず留学後も活かしていきたいです。

大学1年生のころは海外留学など全く考えておらず、自分が約10か月の留学に行くとは思っていませんでしたが、大学2年生のイタリアの短期研修をきっかけに悩みながらも留学に行くことを決意して本当に良かったと思います。教職課程を取っていることもあり、卒業が遅れてしまうことに不安を覚えていましたが、留学で経験した異文化理解やコミュニケーションの取り方、知識など、教員になった際に役立つことばかりでした。留学と聞くととても大きなことのように、何か特別なことを成し遂げたり、特別な人にならないといけないというイメージがありますが、私はいつもの自分を見つめなおし、小さな目標を少しずつでも達成していくことで、帰国した際に振り返って、本当にいい経験になったと感じました。留学に行くか悩んでいる人は「留学」というものを必要以上に大きなものと捉えず、1日1日自分のやり方で過ごしていけばいいと思います。そしていろんなところや人に出会い、台湾の良さを知ってもらいたいです。

